

インミタカ通信

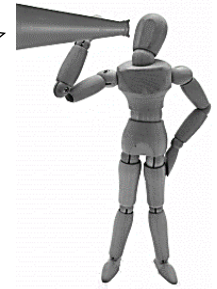
発行： NPO法人 障害者生活支援センターインミタカ No. 44

発行日：2018年7月25日

若手障害当事者リーダーは、今

～ユースパワーネットワークの紹介～

宮城永久子



今から20数年前。できないことだらけの自分が嫌이었다。そんな私に「ありのままがいい」と教えてくれたのが障害のあるピアカウンセラー*1だった。その時初めて、自分が生きてきたことに対する肩の荷が下りた気がした。また、制度を利用することにも否定的な風潮の中で育った私に、障害当事者リーダー*2たちは制度を使って生きる権利をこんこんと説得した。自分がいざ利用してみるとどんどん生活圏が広がり、自由が得られた。我慢に我慢を重ねた生活から、障害当事者リーダーたちは私を自由な世界へと導いていった。それが私が障害者として当事者活動に身を投じていったきっかけだった。

あれから20年。少しずつだが、社会のバリアフリー化は進んでいるように感じられる。しかし、それは完全ではない。まだまだ障害者たちが社会の改善を求めて声を上げていく必要がある。なのに、私たちは若い障害者たちにそのバトンをうまく渡せていない現実がある。悩んでいたところに、ユースパワーネットワークの存在を知った。

代表をしている川崎良太さんは現在、30歳。脊椎性筋萎縮症という障害があり、電動車いすを使用している。24時間介助を受けながら、一人暮らしをしている。鹿児島在住のため、実際にお会いすることはできなかったが、メールと電話で話を伺った。

宮城：ユースパワーネットワークとは、どんな活動ですか？

川崎：JIL(全国自立生活センター協議会)のプロジェクトチームとして2010年に始動。自立生活運動の継承と次世代のリーダーの育成を目的に設立され活動しています。

メンバーは全国各地の35歳以下の若手当事者メンバーでCIL(自立生活センター)に所属している者になっています。

ねんかん おも かつどう にほんじゆうだんあいえる がっしゆく しゆさい わかて
年間の主な活動として、日本縦断 | L ※³合宿(ユースメンバーが主催し若手の
とうじしゃ がっしゆくけいしき あいえるうんどう れきしまな かた あ じっさい うんどう おこな じる
当事者と合宿形式で | L 運動の歴史を学ぶ、語り合う、実際の運動を行う)やJILの
ぜんこく せいかはつびよう おこな
全国セミナーでの成果発表を行っています。

みやぎ わか しょうがいとうじしゃ しょうがいしゃうんどう なに ひ くわ おも
宮城：若い障害当事者は障害者運動※⁴の何に惹かれて加わろうと思うのでしょうか？

かわさき いま しょうがいしゃ しょうがい く おも う い せいど つか いっけん けんじようしゃ
川崎：今の障害者は障害を苦と思わず受け入れ制度を使いこなす。一見すると健全者と
かわらぬ せいかつ おも せいど わく なか こ せいかつ おも
変わらない生活に思えますが、制度の枠の中にはめ込まれて生活をしていると思う
ことがあります。外出は月に一度「お出かけの日のみ」や「ヘルパーの時間に生活スタイル
を合わせること」等、自らの生活が他者の都合や意思によって変えられていること
に「慣れすぎて」いるのではないのでしょうか？

みづか お げんじよう けんじようしゃ くら ふりえき こうむ さべつ
自らが置かれていた現状が健全者のそれと比べ、不利益を被っていたり差別されて
いたと感じた時に他にも同じような人達が沢山いるのではないかと気づく。その気づき
がやがて怒りに変わり悔しさを募らせる。

しょうがいしゃうんどう しゃかい りふじん たいじ ほね お さぎよう
障害者運動は社会の理不尽さと対峙していかねばならず、骨の折れる作業ではある
のだけれど、そこに気づき仲間を思い戦っていくことができるのは当事者であること。

ひつぜん う しょうがいとうじしゃうんどう げんざい しょうがいとうじしゃ
必然から生まれた障害当事者運動が現在は障害者としてのアイデンティティを
と もど さぎよう おも
取り戻す作業になっておるのではないかと思います。

みやぎ みらい しょうがいしゃ む よ おも
宮城：未来の障害者リーダーに向けてどんなことを呼びかけていきたいとおもいますか？

かわさき じぶん せいかつ おく つつ かんが ほ おも
川崎：まずは自分がどんな生活を送りたいのか突き詰めて考えて欲しいとおもいます。それ
を送るために何が必要なのか、どうしたら送れるのか。そしてその生活を思うように掴
めなかった時それはなぜなのか考える、自ずと運動の必要性を感じるとおもいます。
そして、その生活をさらに良くしたい、さらに広めたいとおも、運動はうねりを持ってい
きます。

しょうがいしゃ しょうがいとうじしゃ じぶん れつあく じようきよう くる
障害者から障害当事者になり、自分のためにそして、もっと劣悪な状況で苦しめられ
ている仲間のために声をあげましょう。運動をしていく者の絶対数が増えることが今後
の鍵になってくるとおもいます。

※1 ピアカウンセラー…同じ障害のある立場で障害者のサポートをする人

※2 障害当事者リーダー…地域の障害者や障害福祉の向上のために活動
する障害当事者

※3 | L 運動…障害者が自立生活の権利を主張した運動のこと。

※4 障害者運動…障害者が自分たちの権利や暮らしの改善を求める運動のこと。



りようしゃ 利用者さんインタビュー「最近どう？」

かた て おざさまさひろ
●語り手：小笹真裕さん
きて しよくいん みやぎとわこ
●聞き手：ぼっぐ職員 宮城永久子
はけんぶしちよう しばやしのおよし
派遣部 所長 小林延芳



こんかい はけんぶ りよう おざさまさひろ はなし き おざさ ことし さい
今回は、派遣部でガイドヘルパーを利用している、小笹真裕さんにお話を聞きました。小笹さんは今年29歳の
フレッシュな青年です。脳性麻痺の障害があり、屋外は車いすで移動します。

-趣味はありますか？

ハンドサッカーです。「府中バタフライ」というチームに所属しています。

チーム名の由来は、「蝶のように舞い、チーム力で勝つ！」

-ハンドサッカーってどんなスポーツですか？

その名の通り、手で行うサッカーです。

-「府中バタフライ」で小笹さんはどのような役割を担っていますか？

チームのメンバーが、どんな障害を持っているかを把握し必要な配慮をしたり、付き添いで来る家族などに、競技ルールを教えたり、学校とメンバーの連絡調整を

したり、OBとして現役の高校生に教えに行ったり、などなど。対外的には、ハンド

サッカーチームが他地域合わせて12チームいるので、その会議に出て大会運営について協議しています。

-チームメンバーとはハンドサッカー以外で交流はありますか？

仲が良い人たちで、カラオケや食事に行ったりしています。後は悩みを聞いたり…。

ハンドサッカーには、卒後の場、運動の機会、仲間づくり、仲間の関係維持など様々な機能があります。

-「悩みを聞いたり」という話がありましたが、ハンドサッカー以外の悩みはどのようなことがありましたか？

他の自治体に住んでいるメンバーから「ヘルパーが利用できない。」という相談がありました。

僕は、親に付き添ってもらいよりもヘルパーを利用したいな。ヘルパーだと気兼ねなく自分の用事ができるし、ヘルパーの話も聞けますね。

-将来はどのような生活をイメージしていますか？

親は自分より先に亡くなるから、いずれは一人暮らしか、グループホームでの生活を考えています。どちらかという
と一人暮らしをしたいのですが、仕事でもっと稼がなければならないなど、色々と課題があり悩んでいます。

-ユースパワーネットワーク(1ページと2ページで紹介しています)についてどう思いますか？

興味はあります。気になることが一つあって「差別の解消」と言っていますが、それは個人的にじっくりきません。

僕自身、今までの人生で差別を感じたことがないからです。兄が健常者で兄の友人と遊んだり、あたりまえに一緒に
に過ごしてきました。

世の中に「差別がある」とあたりまえに言うけれど、僕はそうは思わないですね。

ハンドサッカーで培ったリーダーシップと若いエネルギーで、今後も地域の中で活躍していきましょう。

【小笹さんより】ハンドサッカーの活動に協力してくれるボランティアを募集(☆)しています。

興味のある方は以下までお問い合わせ下さい。

宛先 三鷹市障がい者相談支援センターぼっぐ 電話 0422-71-0901

☆2018年度は締め切ったため、2019年度協力して下さる方を大募集しています。

ボランティアは協力いただく内容の都合上、健常者を対象としています。





あれから、2年。やまゆり園事件を振り返る
 ～障害があってもいいじゃないと言い切れる社会へ～



今から2年前、神奈川県かながわけんの知的障害者福祉施設ちてきしょうがいしゃふくししせつで入所者19人が殺される事件じけんが起きた。障害しょうがいがある生き方を肯定し、前向きまへむきに生きてきた多くの障害者しょうがいしゃにとって、自信じしんを無くすような、悲しい事件じけんだったといえよう。

そして社会しゃかいの目はおそらく、「障害者しょうがいしゃは生きていく意味いみがないと判断はんだんされ、殺された事件じけん」としての印象いんしょうが残のこっているだろう。

障害しょうがいがあろうとなかろうと、そこに命いのちが存在そんざいする限り、その命いのちに対し、生きていく意味いみがないと、他人たにんが勝手に決めつけるべきではないはずなのに。いつしかの朝日新聞あさひしんぶんのコラムの中で、一般財団法人たんぽぽの家いえの理事長りぢちよう、播磨靖夫氏はりまやすおしは言った。「障がいのあることがもはや『負』の価値かちとはならない社会しゃかいのあり方をめざす」と。

障害しょうがいがあると、配慮はいりよが必要ひつようだったり、人の助けを借りたりする場面ばめんは出てくる。それをマイナスととらえず、人と人が違うことを認め合うきっかけをつくったり、人と人との新たな繋がりを生み出したり。「障害しょうがい」をもっとプラスのイメージでとらえることができたなら、障害者しょうがいしゃだけでなく、すべての人にとって穏やかで暮らしやすい社会しゃかいになっていくのではないだろうか。

この社会しゃかいの中には多種多様な人なかがいることが当たり前。障害しょうがいがあろうがなかろうが、そんな関係かんけいない。私たちは確実に生きていく。そう言い切れる社会しゃかいを目指めざして、私たちは今後も活動かつどうしていきたい。

(ぽっぷ職員しょくいん 宮城、南雲、工藤)



今年ことしも、北野ハピネスセンターきたのの館まつりで縁日えんにちを行いました。縁日えんにちを通して、子どもたちこに「障害しょうがいのある人と遊んだけど、怖くなかった、楽しかった。普通のおじさん(おばさん)だった。」という経験けいけんをしてもらい、未来ある子どもたちが「障害しょうがいがある人も社会しゃかいの一員」とあたりまえに思ってもらえるきっかけにしたいと企画きかくしました。

縁日えんにちに伴い、ご協力きょうりょくいただいた障害者ボランティアの木下とし子さん、神谷佳枝さん、菅沼貴彦さんすがぬま たかひこ、石井啓一さんいしいけいいち、松原友美さんまつばらともみ、桧垣知子さんひがきともこ、松崎嗣子さんまつざきつぐこ、縁日運営えんにちうんえいにボランティア協力きょうりょくいただいた皆様みなさま、当日とうじつ、障害者スタッフしょうがいしゃが参加さんかできるよう、業務時間ぎょうむじかんの短縮たんしゆくにご協力きょうりょくいただいた、ワークセンターゆめ様さま、この場を借りて改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

同封のチラシは、やまゆり園事件を受けて障害しょうがいがあっても幸せしあわいに生きていくことを伝えるために、7/13(金)北野ハピネスセンターの館まつりで、来場者らいじょうしゃに配くばっていただきました。

また、香川県かがわけんの高松ボランティア協会たかまつ きょうかいさま様からいただいた、障害者しょうがいしゃの詩と絵で構成し えされた冊子さっしもお配くばりました。高松ボランティア協会たかまつ きょうかいさま様、ご提供ていきようありがとうございました。(派遣部はけんぶ所長しよちょう 小林こばやし)

リレートーク 地域で生きる

ぼく しょう しゃ であ み せかい 僕が障がい者と出会って、見えてきた世界

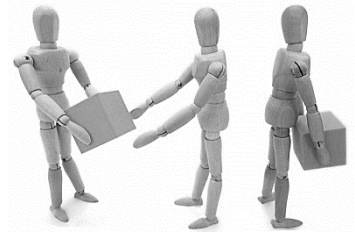
大成高等学校 教員：坂 憂樹

高校で数学を教えたいと、北海道から上京してきた僕の目標は、大学を卒業することと、先生になるまでにたくさんのことを経験することでした。東京の夜は明るくて、人もたくさんいて、刺激の連続のなかで生活を送るうちに、今まで見えなかった、見てこなかった人が見えるようになりました。それが、障がいのある人でした。今までも近くにいたはずだけど、意識するだけで気になって仕方がなくなりました。

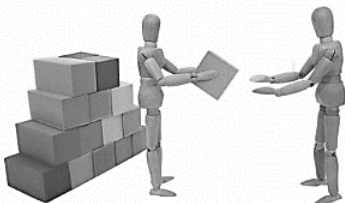
教職課程には、社会福祉施設で障がい者の介助や交流を行う「介護等

の体験」が必要でした。初めて面と向かって接したわけですが、楽しそうに笑っていたり、穏やかな表情をしていたり、ときに叫んで、それを温かく見守る職員とボランティアスタッフ。同じ世界で住んでいるはずなのに、

明らかな異空間にとっても複雑な気持ちになりました。僕は本来、同じく働くならその対価として賃金をもらいたいと考えていて、今もその考えに変わりはありません。それでも多くのボランティアに関わってきたのには、この複雑な気持ちに正対するためでした。見ようとすれば見える現実から目を背けず、結果よりも過程に重きを置くことで世界は広がるし、自分自身の考え方も変わります。僕が今、福祉ボランティア同好会の顧問として部員をぽっぷに連れてくるのも、自分とその周りの世界を少しでも広げるきっかけになればいいと思っていますからです。



¥0

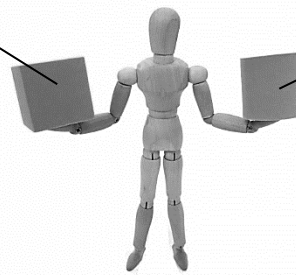


自己紹介

三鷹市上連雀にある大成高校で福祉ボランティア同好会の顧問としてぽっぷと繋がりを持たせてもらっています。福祉ボランティア同好会の主な活動は、近隣の高齢者施設、保育園、そしてぽっぷへの訪問です。同じ街で暮らし、少しでも互いの距離を身近に感じてくれたらいいと思っています。

ぽっぷのフリースペースにボランティアに来てくださっている大成高校の生徒さんから感想を頂きました。

●前から、障害がある人もない人もそんなに変わらない！とは思っていたけど、実際に接してみると、思ったよりもいろんな人がいるなと感じた。これは来てみないとわからない。



●参加してみて参加者から話しかけてくれたりして、私達とそんなに変わらないんだなーと思った。

後援会へのご協力ありがとうございました

後援会費は、ヘルパーの資格取得に関するもの等に使用させていただきました。
今後とも、当法人をどうぞよろしく願い申し上げます。50音順（敬称略、読み仮名略）

麻生 敏史 伊藤 一美 金子 彰 桑原 直純 佐藤美恵子 田森美知子 長谷川登三男 松田 正剛
天野 隆允 上田平三郎 金子 恵子 河野 俊光 志田 秀人 坪谷謙一郎 花柳伊香衛 森内 康行
天野 宏信 上原 重男 木戸 雅人 小塚 洋司 志村 久男 長澤 雅彦 濱田 耕一 森戸 遊生
綾野 憲夫 碓田 泰亮 木村 浩敬 小林まり子 陶山 直美 名塚 勝一 濱千代圭一 矢崎 尚之
有賀 真弓 内田 敏康 木村 絹代 小林 孝 瀬端佳代子 名取 学 平田 克男 安間 武史
五十嵐公平 内田 智康 工藤 杏平 近藤 孝 高橋 常幸 名取 祐子 堀井 義明 谷津 浩之
池田 悟史 内田 雪子 久保 正 佐々木泰明 高橋 則子 名取祐理恵 前川 惟代
石井 啓一 大塚 洋子 窪田 純子 佐々木 臣 高橋 宏幸 新田 真久 牧 暢彦
石川 明子 岡田 薫 黒岩 聡 佐々木美恵子 竹森 敏子 仁礼 均 松井 京子 匿名 2名
石橋 正省 柿崎 幸子 黒木 洋志 佐藤 世玲 田中 友悦 蓮見 修一 松井 メグ

後援会は、当法人のヘルパーの育成や行政との橋渡しなど、幅広い役割を担っています。
■NPO法人障害者生活支援センターインみたか内「後援会」（担当 小林）
電話 0422-71-0902 / ファックス 0422-24-6266

ぽっぷ お出かけランチタイム

5月19日（土）、毎年恒例となったぽっぷのイベント、お出かけランチタイムを三鷹中央防災公園にて開催しました。参加者はぽっぷに登録されているメンバーだけでなく、外部からの参加もあり、ぽっぷの存在や今後の相談につなげていける良い機会になりました。
内容は、参加者全員での借り物競争や、職員合田のキーボード演奏にのせてみんなで歌い、大変盛り上がりしました。当日はあいにくの曇り空でしたが、参加者の熱気や笑顔で気分は晴天でした！
ちなみにインみたか主催の毎年恒例のお花見は、4月15日（土）に行いました。

（ぽっぷ職員 金子洋祐）

三鷹市障がい者相談支援センター ぽっぷ

〒181-0013 三鷹市下連雀4-15-18-2階 電話 0422-71-0901 ファックス 0422-26-5141
メール poppu@dream.ocn.ne.jp ホームページ <http://www6.ocn.ne.jp/~poppu/>

障がい者計画相談センター くも

〒181-0013 三鷹市下連雀4-15-23-A102 電話 0422-26-7229 ファックス 0422-26-7229

障害者生活支援センター インみたか 派遣部

〒181-0013 三鷹市下連雀4-15-23-A102 電話 0422-71-0902 ファックス 0422-24-6266
メール in-mitaka@iaa.itkeeper.ne.jp ホームページ <http://www6.ocn.ne.jp/~poppu/inmitaka/index.html>

皆様からの
ご意見・ご感想が
私たちの励みに
なります。
お待ちしております。